南愛媛第二風力発電事業（仮称）に係る 環境影響評価準備書に対する知事意見

第1 総括事項

- 1 環境影響評価の手続を進めるに当たっては、ホームページ等による積極的なデータ開示に努めるとともに、客観性のあるデータを用いて分かりやすく丁寧な説明を行うことにより、地域住民の十分な理解を得ること。
- 2 事業実施区域周辺では、稼働中及び計画中の複数の風力発電事業が存在し、工事中及び供用後に騒音・超低周波音、景観、動植物等への複合的な影響が懸念されることから、周辺の他事業者との情報共有に努めるとともに、これらの事業計画等を踏まえて、適切に事後調査を実施すること。
- 3 事業実施に当たっては、関係機関の理解と協力のもと、関係法令を厳守し、周辺環境に与える影響について可能な限り低減すること。また、地域住民からの要望や苦情等に対しては誠意を持って対応し、住民不安の解消に努めること。

第2 個別事項

1 騒音・超低周波音

騒音及び超低周波音については、人によって感じ方が異なるとともに、周辺の他事業との複合影響が懸念されるため、事業実施後に継続的な環境監視を実施し、調査結果の蓄積を図るとともに、ホームページ等により公開すること。

調査に当たっては、「風力発電施設から発生する騒音等測定マニュアル（平成29年5月 環境省）」等の最新の知見に基づくとともに、調査地点は事業実施周辺地域の地形等を踏まえたうえで、直近民家はもとより、学校や病院等の特に配慮が必要な地点、及び複合影響が想定される地点を適切に選定すること。

2 水環境

本事業において、工事用・管理用道路の整備や風力発電設備の設置等による大規模な改変が実施される箇所があることから、これらの改変によるみずみちの変化等が懸念される。このため、工事の実施に当たっては切土量及び盛土量の最小化を図るとともに、土砂の流出や濁水の発生に細心の注意を払うこと。

3 風車の影

本事業においては、風車の影が年間30時間以上かかる、1日30分を超える可能性がある範囲には居住宅が存在しないとして影響は回避・低減されると評価しているが、事業区域周辺は林業が盛んであり、林業従事者が多く存在する可能性がある。また、人工林の生育に対する影響も想定されることから、これらの影響について事後調査により確認すること。

4 動物・植物

- (1) 事業実施想定区域周辺には、希少な動植物が多数生息していることから、必要最低限の土地改変に努め、動植物への影響を回避、低減できるよう配慮すること。
- (2) 本事業の実施により少なからず尾根筋が分断されることや、騒音・超低周波音等の影響により動物の行動に変化が生じるおそれがあるため、専門家の意見を聴取する等して、必要に応じ事後調査を実施すること。
- (3) 法面緑化については、事業地内の表土を用いる工法により実施すること。

5 景観

事業実施区域周辺は、地元自治体が整備したサイクリングコースが存在し、南予地域の最高峰である篠山への登山客も利用することから、これら観光資源としての景観にも十分配慮した施設とすること。

6 人と自然との触れ合い活動の場

事業実施区域周辺の旧へんろ道（宿毛街道中道）については、世界遺産を目指す四国遍路のルートであることから、事業による改変を行わないこと。

7 文化財

近年、南予地域の稜線上において遺跡が発見される事例が多いため、事業実施中に発見した場合には関係市町の教育委員会と協議し、適切に対応すること。

8 その他

- (1) 「環境影響図書の公開について」（平成 30 年 3 月 30 日付け環政評発第 1803305 号）に基づき、積極的に情報公開を行うこと。
- (2) 準備書においては、全般的に曖昧で抽象的な表現が多いため、評価書においては具体性のある説明を行うこと。
- (3) 近年頻発する大規模災害や今後発生が見込まれる南海トラフ巨大地震等に対応できる工事計画とし、具体的な工法等を評価書に記載すること。